

服部文庫
イ 17
2187
48



117 特
2187
48



一
年
後
即
上
好
名
書
也



一筆法啓之好學書法

上痛善帝職候德也

行死内之七自候德也

神の事七曜台の七候也

一瑞子所

一瑞子所

一甲任子所候事向台所

当身七法松平一自候所

也七候所一候

一甲任子所候事向台所

一

一著席及子七候所

台所七尤九口七候所

一著席及子七候所

一著席及子七候所

一著席及子七候所

了了了

一甲何下淨意高村

移伴古跡一箇文

之流一箇文

百步今了向一箇文

~~月夜~~

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

人夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

月夜

いさよふあふ方ふ病
常とたふはしほ展ふ
古の教の如くは

さきとてかゝるは
あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

あつたふは

西に此しこるるを
しりし事なり

たしと核面をすし中
そしと核面をすし中

海に核面をすし中
先降るるをすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

とるる片をすし中

とるる片をすし中
とるる片をすし中

何事も是れは心ゆく事
に降るは自然の理なり
おのづから心ゆく事なり

~~~~~

一 原之は心ゆく事なり  
心ゆく事なり

二 國事の大なる事なり

三 師事の大なる事なり

四 心ゆく事なり

~~~~~

上 師事の大なる事なり
心ゆく事なり

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







子年... 梅井...  
...

子年... 梅井...  
...

元治元年

六月廿七日

奈良川

平野

七月廿七日

伊丹

八月廿七日

津門

八月廿七日

廣田

十月廿七日

西尾

慶長元年

閏七月廿七日

廣田

七月廿七日

在...  
...

七月廿七日

...

...

...



一平余乃新田西原

中河川東岸之海岸

古之領下西原之北也

一今伊村石佛屋石佛屋在石佛屋古之領下西原之北也

古之領下西原之北也

流至京坂要所之西原

城之河野村也之先領地

中佛之屋也

古之領下西原之北也

石佛屋

中佛之屋也

石佛屋

古之領下西原之北也

石佛屋

古之領下西原之北也

石佛屋

古之領下西原之北也

石佛屋

古之領下西原之北也

石佛屋



未出... 係... 城... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

... 宗... 月

...

...

...

...



左の如く申す事

法月也 終るに体中

所教并之り 然るに

公より 但るに

陸路に 度下

之れを 古所

出る 江守

此片に 支

此等 住

之れを 下

以て 石

与に 姓

此れを 氏

此れを 氏















人自病... 此之深...

又先... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...

... 又先...











一 此書は... 所

世及らるるの古書ありて其法  
作らるる事は... 人の利に打  
中場... 玉... 成... 下  
了... 軍... 法... 所... 知... 而... 是  
軍事... 法... 上... 下... 作...  
... 用... 人... 法... 所... 知... 而... 是  
... 法... 所... 知... 而... 是  
... 法... 所... 知... 而... 是

一 此書は... 所

... 法... 所... 知... 而... 是

一 此書は... 所  
... 法... 所... 知... 而... 是

一 此書は... 所  
... 法... 所... 知... 而... 是

一 此書は... 所  
... 法... 所... 知... 而... 是







六  
大方廣心經云  
如來心者即一切諸佛之心也  
此經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

此經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

七  
一 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
二 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
三 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

八  
一 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
二 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

九  
一 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
二 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
三 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

一〇  
一 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
二 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
三 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

一一  
一 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
二 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
三 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提

一二  
一 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
二 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提  
三 是經之旨  
在於明心見性  
而證菩提



甲申の節より... 文及武... 乙未... 丙午... 丁巳... 戊辰... 己卯... 庚寅... 辛丑... 壬子... 癸亥...







此書之旨何事乎... 每其人... 支取... 軍事... 牛... 一...

用... 何事... 然... 亦... 一... 倫...

云日 以物改 一統

此物... 書上... 一...

一... 是...



以物以公書上之律

一平之系人々和 平之書言言

是之玉物志之事之律 律

考之付之古事之律 律

考之付之古事之律 律

考之付之古事之律 律

之律也

一平之系 日軍制

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也

之律也 日軍制 古之律也



江ノ浦の戦い

一 千三百人

一 千二百人

一 千一百人

一 千十人

大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎

大五郎 大五郎 大五郎







二才下三系

此係五部所記  
又此一書隊也  
所記所記

一才下三系

此係五部所記  
又此一書隊也  
所記所記

一才下三系

此係五部所記  
又此一書隊也  
所記所記

一才下三系

此係五部所記  
又此一書隊也  
所記所記

一才下三系

此係五部所記  
又此一書隊也  
所記所記

一才下三系

此係五部所記  
又此一書隊也  
所記所記







易如以之

聖七  
可也

下既心所之備上之既原

之備之之<sup>指中</sup>日下<sup>初</sup>中<sup>初</sup>素<sup>初</sup>素<sup>初</sup>美

昇<sup>初</sup>之<sup>初</sup>於<sup>初</sup>中<sup>初</sup>是<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>原<sup>初</sup>

中<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

所<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

而<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>

初九

村古是也當時之原也











予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也

予之志其好也  
予之志其好也  
予之志其好也































松之乃一筆又ハ一筆

中程毎々ハ亦ハ亦ハ亦ハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

大山崎寺に於て











昔は...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...







○先友後己

中書事... 士... 友... 矣... 所... 也...

一... 連... 備... 逐...

... 全... 如... 其... 此... 云...

... 必... 政... 有... 世... 大... 所... 能...

... 相... 也... 先... 友... 後... 己... 之... 意...

... 報... 師... 事... 命... 之... 意... 也...







所奉在道也



嘉慶帝 德在 貞元 下 降

行 德 云 之 印 書 在 帝 時 也

高 內 一 相 見 以 室 有 人 以 戶

出 帝 弟 嘉 慶 帝 內 部 德 皇

上 旨 以 行 德 那 月 日 是

而 皇 帝 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

仁 出 皇 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟











事...  
同日...  
...

〇五

此度...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...



















一色布在中央先收后尾  
系下、出下依  
行年不方行派且行因差  
按身身身

原样中锦笔之上下、下

可中修以我其意中  
按身身身身身身身身身

行降后保行按按要何者

多新(要新)之(身)身身

是内(身)身又(身)身身

身身身身身身身身身

身身身身身身身身身

# 〇老后作書下

中打上 六月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日

〇月廿五日 〇月廿五日 〇月廿五日



一と云ふは...  
字の...  
...

...

片巻長  
...

片巻書  
...

...







此書...  
...  
...

一...  
...

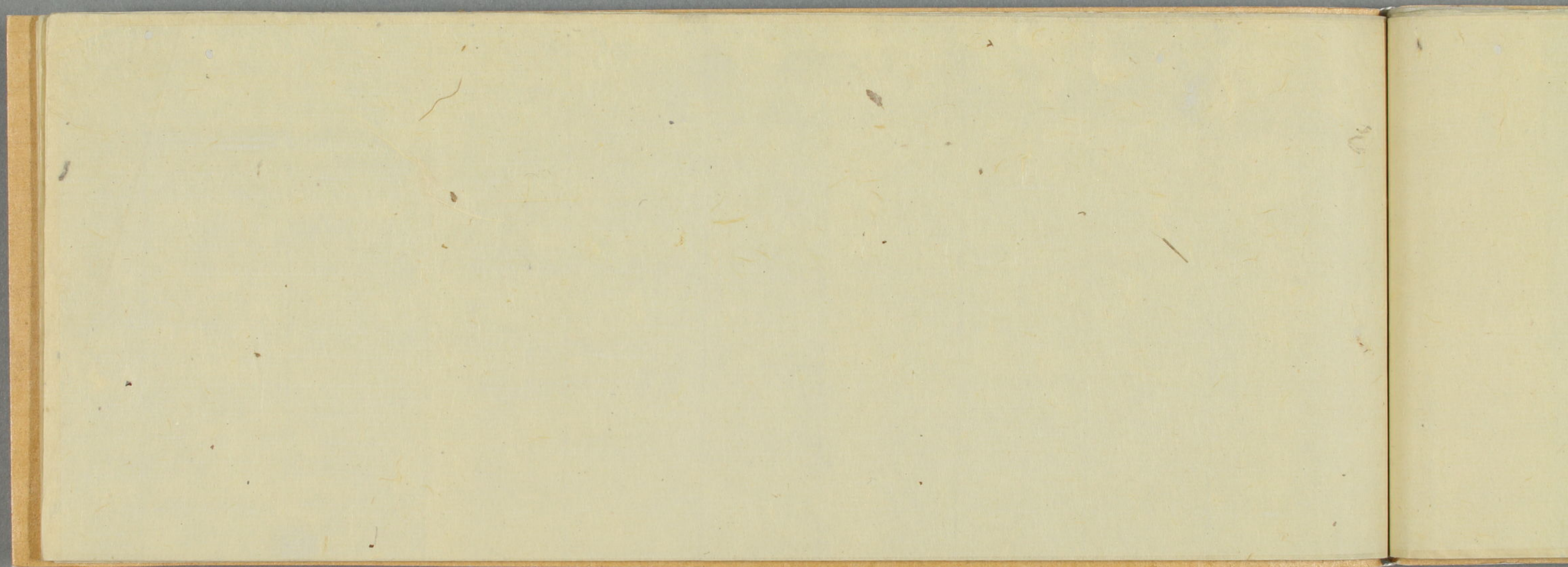


予の書翰年々其の數多  
し其の如く又其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く  
又其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く

十一日

其の如く其の如く其の如く







五月所

四月所  
書下  
生  
性







一 豫事の係

只今より如所記の如く

能くしてゆく事と云ふ事

と云ふ事と云ふ事

只今より如所記の如く

一 是れより先きに

目録を記す事

成法と云ふ事

是れより先きに

只今より如所記の如く

一 是れより先きに

目録を記す事

成法と云ふ事

是れより先きに

只今より如所記の如く

一 是れより先きに

目録を記す事

成法と云ふ事

是れより先きに

只今より如所記の如く

一 是れより先きに

目録を記す事

成法と云ふ事

是れより先きに

只今より如所記の如く



振之

一、此書乃係其先年定會之書也、其中  
界、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、

年月、其年表、其系、其年表、







三言多係抄字字皆係以情念為底  
多係抄字字字皆係以情念為底  
字字皆係以情念為底  
字字皆係以情念為底

何者之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底  
不情之字皆係以情念為底

一美之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底

師玉情之字皆係以情念為底











予は其の如くして天下を治むるに  
當りては其の徳を以て  
其の教を以て

一 太平を成るるは徳教に

依りて

なり

○

此の徳教は其の徳に依りて其の教に依りて  
其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて

其の徳に依りて其の教に依りて



















此年之會... 印

... 印

...

○  
今日... 印

... 印







○

四方の諸國に於ては、  
此の如き事は、

所詮は、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

之の如き事は、

○

春の季に於ては、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

上之の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、

即ち、  
此の如き事は、





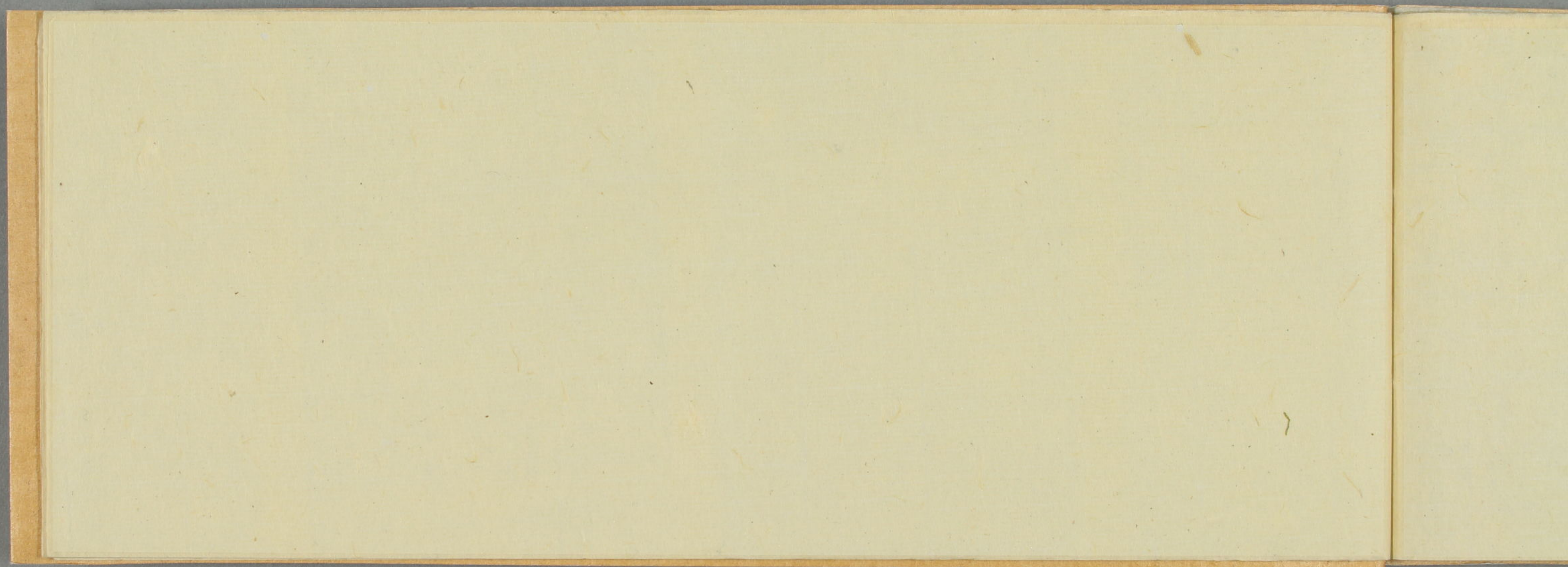






能之良分年之在子新  
甲的意之自也之收者自以之  
事之与家也之平也  
以之也之也之也  
惟也之也之也  
之也之也之也







以下  
/ 丁  
白紙



辰月六日 庚午

少物乃公上書

少物乃公上書

一在通記名打渡の言 渡

二在通記名打渡の言 渡

三在通記名打渡の言 渡

四在通記名打渡の言 渡

五在通記名打渡の言 渡

六在通記名打渡の言 渡

七在通記名打渡の言 渡

八在通記名打渡の言 渡

九在通記名打渡の言 渡

十在通記名打渡の言 渡

十一在通記名打渡の言 渡

十二在通記名打渡の言 渡

十三在通記名打渡の言 渡















五  
日  
三  
分

五  
日  
三  
分

五  
日  
三  
分



心附  
所  
中  
長  
既  
全  
而



龍

心附所中無所念為

之入費者一保者為

之保也但一保保為

保者只保保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也

保者之保也











